

審議会等の議事の要旨（要点）

（基本情報）

会議名称	第 15 期 第 6 回男女平等参画推進審議会
開催日時	令和元年 12 月 20 日（金曜日） 午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分
開催場所	女性総合センター 第 2 学習室
次第	<p>1. 開会</p> <p>2. 報告</p> <p>○立川市第 6 次男女平等参画推進計画実施状況報告（平成 30 年度年次報告）に対する評価意見について</p> <p>○立川市第 7 次男女平等参画推進計画（素案） 第 1 章～第 4 章</p> <p>3. 議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立川市第 6 次男女平等参画推進計画 指標と目標値 5 年間の達成率 ・立川市第 7 次男女平等参画推進計画 市民・地域・事業者・行政の役割 <p>3. 閉会</p>
配布資料	<p>・立川市第 6 次男女平等参画推進計画実施状況報告（平成 30 年度年次報告）に対する意見について（答申）（写）</p> <p>【資料 1】立川市第 7 次男女平等参画推進計画（素案）第 1 章～第 4 章</p> <p>【資料 2】立川市第 7 次男女平等参画推進計画 指標と目標値</p> <p>【資料 3】立川市第 6 次男女平等参画推進計画 指標と目標値 5 年間の達成率</p> <p>【資料 4】立川市第 7 次男女平等参画推進計画 市民・地域・事業者・行政の役割</p>
出席者	<p>[委員]</p> <p>加藤恵津子、佐藤良子、鳥生尚美、中川夕香、小柴ひかり、坂本澄子、小柳郁美、津崎結子、山本麻衣奈、森林育代</p> <p>[事務局]</p> <p>岡田幸子（男女平等参画課長）、横田昌彦（男女平等参画係長）、平野邦明、齊藤悦子（男女平等参画係）、株式会社アイアールエス 2 名</p>
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0 人
会議結果	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長あいさつ ・答申（立川市第 6 次男女平等参画推進計画実施状況報告（平成 30 年度年次報告）に対する意見について） ・総合政策部長あいさつ <p>2 報告</p>

	<p>(1) 立川市第6次男女平等参画推進計画実施状況報告（平成30年度 年次報告）に対する評価意見について</p> <p>(2) 立川市第7次男女平等参画推進計画（素案） 第1章～第4章</p> <p>3 議題</p> <p>(1) 立川市第7次男女平等参画推進計画 指標と目標値（資料2） について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より資料に基づいて説明が行われた。（内容は省略。） ・委員からの意見等は下記のとおり。 <p>【質問・意見等】</p> <p>基本テーマⅢ 男女が働きやすい環境づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『育児・介護休業規定を定めている事業所の割合』について、確かに企業は規定を定めているが、どちらかというと知りたいのは実際に育児・介護休業を取得した人の割合なので、それを一緒に記載した方が良いのではないか。 ・制度があっても実際は使えないという会社はたくさんあるので、実際の取得率を上げなければならないと思う。 <p>⇒ 企業へ調査をしても、きちんとした回答が出るかは分からない。実際には取得できていないと思う気持ちが従業員にあっても、会社は取らせていると考えている場合もある。事業所側の調査ではなく、労働者側の調査が必要だ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所の割合を載せるよりは、取得率を載せていただきたい。 <p>⇒ 取得率に近いデータを探して修正する。</p> <p>基本テーマⅣ 配偶者等からの暴力の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「夫婦間における①『平手で打つ』②『殴るふりをして脅す』③『交友関係を細かく監視する』の各行為について暴力だと思う人の割合」について、最新値が平成27年度の数値になっている目標値は年次が変わっただけで数値の内容が変わっていない。目標値はいつ更新されるのか。 <p>⇒ 「男女間における暴力に関する調査」を平成27年度以降は実施できておらず、数値が更新できていないため、今後令和6年度までに実施したいと考えている。目標値が前回同様100%や「根絶を目指す」になっているのは、目標の最大値になっているため変更できないため。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「夫婦間における、①『平手で打つ』②『殴るふりをして脅す』③『交友関係を細かく監視する』の各行為について暴力だと思う人の割合」は、この3つから変えないのか。 <p>もし変更が可能であれば、啓発の意味を込めて「家計に必要な生</p>
--	--

	<p>活費を渡さない」、「家族や友人との関わりを持たせない」も追加した方が良い。身体的な暴力が問題になりがちだが、精神的な暴力も重大な人権侵害にあたり、配偶者からの暴力だけでなく、子どもの虐待等にも繋がる。</p> <p>⇒ 確かに、わかりやすい暴力行為もあれば、脅しやネグレクトに近いものもある。追加することは可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暴力だとはっきり分かるものの1つが「①『平手で打つ』」で、「②『殴るふりをして脅す』」がそれより少し分かりづらい。「③『交友関係を細かく監視する』」は、暴力にあたっている人が48.9%となっており、14項目中一番少ないので、それらを選んで載せているということか。 <p>⇒ 現在は、どの項目も暴力になるものだと周知が進んできているが、平成23年の時点はそうではなかったため、継続して取り上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『第3章基本テーマごと現状と課題 - 基本テーマⅣ配偶者からの暴力の防止』の下段、『■交際相手からの被害の経験』が「身体的暴力」、「精神的暴力、脅迫」、「性的暴力」、「経済的暴力」となっているので、それを参考にピックアップすると良いのではないか。また、『■夫婦間での行為に関する「暴力」としての認識』の「暴力にあたるとは思わない」という数値をゼロに近づけた方が良いと思う。「暴力にあたると思う」だけを指標にすると、「場合による」という数値の存在が読み取れない。 ・「場合による」は暴力を黙認・肯定していると言えるので、このパーセンテージも減らさなければならない。ここがDVの要因になっていると思う。 ・「場合による」はあり得ない、ということを記載した方がいい。 ・「場合によっては暴力になったり、暴力にならなかったりする」と思っている人の割合である。注釈と、市が目指しているものは何かを記載する必要がある。 <p>⇒ 指標と目標値に「家計に必要な生活費を渡さない」という項目を設けて指標を4つにし、100%を目指すと修正する。</p> <p>資料として添付した表に対しての説明が踏み込み過ぎてしまうため「場合による」の考え方を示すのは控える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「カウンセリング相談件数に占める配偶者等からの暴力に関する相談件数の割合」の目標値を最新値より減少させているのはなぜか。 <p>⇒ この指標については、カウンセリング相談件数自体は増えているが、配偶者等からの暴力に関する件数は減っていることから、割合で表示し、下向きの数値目標としたため。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「配偶者等から暴力被害にあった人のうち、どこかに(誰かに)相談した人の割合」が増えているが、「カウンセリング相談件数に占め
--	---

	<p>る配偶者等からの暴力に関する相談件数の割合」の目標値は減少させている。この関係はどう考えているのか。</p> <p>⇒ 「配偶者等から暴力被害にあった人のうち、どこかに(誰かに)相談した人の割合」については、相談先は立川市の機関とは限らないため、増えた方が良く考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「配偶者等から暴力被害にあった人のうち、どこかに(誰かに)相談した人の割合」について、先ほどカウンセリング相談では男性からの相談も増えているというお話があったが、加害者も被害者も相談して良いのか。 <p>⇒ 加害者からの相談は受けることができるが、更生プログラムを立川市では実施していないので、加害者への対応としては都になぐということしかできない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加害者が相談するということはあまり想定されていないのか。 <p>⇒ そもそも男性からの相談件数は年間4件ほどで、記録からは加害者なのか被害者なのかわからず、数字として加害者数は不明。また、必ずしも配偶者等暴力について相談に来ているわけではないと考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは、このカウンセリング相談はどちらかというと被害者を救済するために設けたものであるということか。 <p>⇒ 様々な悩みの相談先としてカウンセリングを行っており、その相談の中で配偶者による暴力被害者を発見し保護することを目的としている。</p> <p>基本テーマⅤ 計画の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『審議会等委員に占める女性の割合』について、これを増やすためのアクションは『立川市第7次男女平等参画推進計画(素案)』(資料1)第4章基本テーマⅤ計画の推進にある「〇市の開催する審議会等において保育事業を行い、女性の参画をサポートします。」のみなのか。 <p>⇒ 市の審議会の委員は、公募以外に団体から推薦していただき、選出しているが、警察や消防等の男性が多い組織・団体の場合、女性が選出されるケースは少ない。「女性の委員を増やしてほしい」と各審議会を所管する各課にお願いをしているところだが、なかなか増えない。今後も各課へ周知を図りたい。また、保育事業は子育て世代が少しでも参画しやすい環境を作るためにできる事業の一つと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『審議会等の保育事業の開催回数』の目標値が令和2年度～6年度末までの累計で30回となっているが、目標値としては少ないのではないか。 <p>⇒ 今年は市で策定する計画が多く、それに伴い各課が審議会を実</p>
--	--

	<p>施しているため、回数が大きく増えるが、5年に1回の策定が多いため残り4年は少ないと考えられる。単年で見ると数値が大きく上下動し、また、お子さん連れの委員の方でも、事業を利用されない方もいらっしゃるため、それらの事情を考慮し、5か年累計として目標値を出した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『審議会等委員に占める女性の割合』については、女性が増えれば良いということではなく、性別を問わずバランスよく意見を反映させることが重要だと思うので、そうした考えがどこかに入ると良い。 ・本来ならこの審議会も子育て世代や働き盛りの男性に参加していただけることが望ましい。 <p>⇒ 『第3章基本テーマごと現状と課題 - 基本テーマⅤ計画の推進』に「…『市内推進本部・委員会』において市の事業全般をジェンダーの視点でチェック・確認するとともに、…」という箇所を追加している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「…バランスのとれたジェンダーの視点で…」とし、「バランスのとれた」を追加するだけで良いと思う。 <p>⇒ 「バランスのとれた」を追加する。</p> <p>(2) 立川市第7次男女平等参画推進計画 市民・地域・事業者・行政の役割(資料4)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より資料に基づいて説明が行われた。(内容は省略。) ・委員からの意見等は下記のとおり。 <p>【質問・意見等】</p> <p>○男女が働きやすい環境づくりの推進(資料4 P.3～5)</p> <p>(1) 男女の雇用機会と待遇の均等の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『市民の役割・地域の役割』について、男性が多い職場で働いているので、女性だからと表に出されることが多い。しかしそのせいで負担が多く、残業が増えている。女性の労働力率が男性に比べて低いからこそ、女性の活躍がうたわれるのだと思うが、バランスが大事ではないか。 <p>⇒ もっと女性が増えて一部の女性の負担にならないような社会にしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『事業者の役割』(P.3)にある「・職場における男女の固定的役割分担意識を見直し、性別にかかわらず従業員一人ひとりの能力が発揮され、いきいきと…」とあるが、女性は「いきいき」としていかないのではないか。「自分らしく」でいいのではないか。 <p>⇒ 「いきいきと」を「自分らしく」に変更する。</p>
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・「・職場における男女の …」の文章の続きとして、「数値目標にとらわれるのではなく …」という文言も入れた方がいいのではないか。 ・数値目標の件に関しては、別の場所で表現ができるのではないか。 ・活躍が十分ではないということを言わないと説明がつかないので、「…女性の参画はまだ十分ではありません。」で良いのではないか。 <p>⇒ 『立川市第7次男女平等参画推進計画（素案）』（資料1）の「基本テーマごとの現状と課題」の基本テーマⅡあらゆる分野での男女平等参画の推進の概要を修正する。</p> <p>（４）男女の多様な働き方のための介護支援（P.5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『事業者の役割』が空欄になっている。 <p>⇒ 空欄なのではなく、上の（３）から続いているがわかりにくい ため、育児と介護の両方に記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援・介護支援に関連して、育児休業と同様に、社員の介護支援等をしている会社を市が表彰や認定をするということは可能なのか。 <p>⇒ 介護者が休みやすい状況を事業所がつくっていれば、ワーク・ライフ・バランス推進事業所に認定できる。</p> <p>◇閉会</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
担当	総合政策部男女平等参画課男女平等参画係 電話 042-528-6801